




# 教材・支援機器活用実践事例

## 【感情のコントロールが難しい児童が在籍する学級で

## 友達とのかかわり方を学級全体で学ぶ指導支援】

子どもについて	学校・学年・学級 対象の障がい 授業形態	小学校 通常の学級 中学年 支援が必要な児童 集団
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や 教育的ニーズ	○中学年児童は、少しずつ自立心が芽生え、友達とのかかわりも大きくなる時期である。また、周りの友達の行動に目が向き過剰に注意をしたりする反面、相手の心情を推し量ることができないことでトラブルに発展することもある。様々な場面で、友達がどのような感情をもつのか、それに対して自分がどのように振る舞えばいいのか、具体的に示す必要があると考える。
教材・支援機器活用	使用した支援機器 ・教材の名称	【画像】 ①  ②  ③ 
活用のねらい	活用のねらい	○友達とのかかわりの中でどのように振る舞うのか気づくことができる。 ・友達をたたいたり傷つけたりするとどうなってしまうかを明確に知らせる。 ・友達にやっていけないことを絵で具体的に表示して知らせる。 ・自分の中の怒りを吐き出す際に、してはいけないことを文字ではっきりと知らせる。
授業における支援 ・教材の配慮事項	授業における支援 ・教材の配慮事項	○教室に掲示して、常に児童が見ることができるようにしておく。 ○児童間のトラブルの際に、この掲示物を見せて、クールダウンに活用する。 ○学級での朝の会、帰りの会などでの生徒指導において活用する。
子どもの変容や評価	子どもの変容や評価	○児童から「〇〇はやってはいけないんだよね。」と話す声が聞こえるなど、学級のルールの一つとして活用できる様子が見られる。 ○「やってはいけないこと」とともに「やるとよいこと」のように、よりよい姿を掲示していきたい。